

世界へ

山道を下りようとする僕の目の前に
下界は明るく微笑を投げかけてくる
お前の懐で生きることを希って
僕はこんなに高い山の頂目指し
喘ぎ苦しみながら登ってきたけれど
ただ笑って迎えておくれ
そう、僕には愛することができなかつただけ

登りつめてゆくうちに掌の上から
次々と何かが飛び去ってゆくを感じた
そうして次々と失ってゆくうちに
そうしてどんどん身軽になってゆくたびに
その重さと尊さを思い知った僕を
ただ笑って迎えておくれ
そう、僕には背負うことができなかつただけ

上る時は知ることだけが全てだった
下る今は愛することが僕の全て
嬉しさも哀しさも怒りも
ひと、まちも、かぜもみんな
抱き上げるために帰る僕を
ただ笑って迎えておくれ
そう、僕は今、やっと僕になったから

(1984.2.12)